

●言葉の響きやリズムを味わいながら朗読してみよう。

初恋

島崎 藤村

まだあげ初めし前髪の
 林檎のもとに見えしとき
 前にさしたる花櫛の
 花ある君と思ひけり

やさしく白き手をのべて
 林檎をわれにあたへしは
 薄紅の秋の実に
 人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの
 その髪の毛にかかるとき
 たのしき恋の盃を
 君が情に酌みしかな

林檎島の樹の下に
 おのづからなる細道は
 誰が踏みそめしかたみぞと
 問ひたまふこそこひしけれ



作者 島崎藤村 一八七二（明治五）——一九四三（昭和一八） 現在の岐阜県出身。
 詩人・小説家。若々しい感性を七・五調の文語で表現し、近代詩の礎を築いた。
 著書 詩集「若菜集」「落梅集」、小説「破戒」「春」「夜明け前」など。
 出典 「藤村全集 第一巻」



「大人になるまでに読みたい
 15歳の詩① 愛する」青木健編

広がる読書